

【SR-9 定性的システマティックレビュー】

CQ	5	がん薬物療法投与において、自流滴下/自流滴下式輸液ポンプを推奨すべきか？
P	がんで経末梢静脈の化学療法を受ける患者	
I	自流滴下/自流滴下式輸液ポンプ	
C	強制注入式輸液ポンプ	
臨床的文脈	使用機材による影響があるのか（ポンプを含む）	

01	皮膚の炎症	
非直接性のまとめ	いずれもポンプを使用し漏出、皮膚の炎症を起こした症例報告であり、自然滴下での症例報告はなく比較ができない。	
バイアスリスクのまとめ	いずれも1例の症例報告のみであり、その症例を取り上げた理由や背景が明確ではなく、選択バイアスが存在する。	
非一貫性その他のまとめ	いずれも1例の症例報告のみであり、サンプル数が少なく不精確性が高い。また統一した評価方法を用いているわけではなく、いずれも観察者の独自の判断でアウトカムを評価している。	
コメント	ポンプを使用して漏出した症例報告4文献のみであり、自然滴下を含めた観察研究はなく、自流滴下/自流滴下式輸液ポンプを推奨するか判断できない。	

02	皮膚潰瘍（壊死）
非直接性のまとめ	いずれもポンプを使用し、漏出壊死した2例の症例報告のみであり、自然滴下での症例報告はなく、比較ができない。また化学療法ではないこと、小児に限定した症例であることを加味す
バイアスリスクのまとめ	2例の症例報告のみであり、その症例を取り上げた理由や背景が明確ではなく、選択バイアスが存在する。また小児のみの症例である。
非一貫性その他のまとめ	2例の症例報告のみであり、サンプル数が少なく不精確性が高い。
コメント	ポンプを使用して漏出した症例報告1文献のみであり、自然滴下を含めた観察研究はなく、自流滴下/自流滴下式輸液ポンプを推奨するか判断できない。

03	速度管理の精度（自流滴下の場合）
非直接性のまとめ	
バイアスリスクのまとめ	
非一貫性その他のまとめ	
コメント	該当する論文はなかった。

04	看護師の業務量
非直接性のまとめ	
バイアスリスクのまとめ	
非一貫性その他のまとめ	
コメント	該当する論文はなかった。

05	血管外漏出の減少
非直接性のまとめ	6つの症例報告は、いずれもポンプを使用し漏出を起こした報告であり、自然滴下での症例報告はなく比較ができない。1つのコホート研究は対象が化学療法ではなく、非直接性は高い。
バイアスリスクのまとめ	6つの症例報告は、ポンプ使用の症例のみであり、その症例を取り上げた理由や背景が明確ではない。小児のみの症例も含まれている。また、コホート研究は薬剤名が記載されておらず、
非一貫性その他のまとめ	コホート研究に関しては十分な例数があり、ある程度統一した評価で行っていると考えられるが、薬剤名が記載されておらず、また小児に限定した報告である。他の6文献が症例報告と
コメント	ポンプと自然滴下を比較したコホート研究が1文献存在した。しかし、小児に限定した報告であること、薬剤が抗がん薬ではないと考えられることなどから、今回のCQに当てはめること